

「職員によるシカ捕獲のわな研修を実施
(群馬・栃木・山梨・静岡県内の各署等)」

計画保全部 保全課

近年、ニホンジカ(以下「シカ」という。)の急速な個体数増加や分布拡大により、森林被害が深刻化の一途をたどっている中で、個体数調整は喫緊の課題となっています。

平成25年12月には国として「抜本的な鳥獣捕獲強化対策」を公表し、平成35年度までに平成23年度の推定個体数の半減を目標に掲げ、各都県をはじめ各市町村、関係機関等と連携を図りつつ広域的なシカ捕獲に取り組むこととしています。



くくりわな設置実習(静岡会場)

平成28年度は、各県の鳥獣保護管理事業計画の中で、国有林野の職員が鳥獣の捕獲を目的とする場合の許可基準に適合している群馬、栃木、山梨、静岡県内の各署等の職員を対象に、シカ捕獲(わな)に従事するための知識と技能を習得する研修を7月下旬に実施したところ、112名の受講がありました。

研修は、鳥獣関係法令などの知識編とわなの設置や操作方法などの技



くくりわな設置実習(栃木会場)

能編を実施し、技能編では、講師から、くくりわなの仕組みや設置方法について説明を受けた後、職員一人ひとりが現地の地形や障害物の有無などを考慮しながらわなの設置を体験出来たことから、現場ですぐに実行できる効果的な現地実習となりました。

各会場とも知識編、技能編ともに真剣に取り組みました。

このことは、シカ被害に対する危機感を各職員が持ち合わせており、もしかしたら自分が捕獲作業に直接携わらなければならぬ状況がすぐにでもやってくるかもしれないという緊張感があつたものと考えられます。



くくりわな設置実習(群馬会場)

くくりわなの仕組みや設置方法について学ぶ技能編では、自分から進んで猟具に触るなど積極的な姿勢が見られ、特に、群馬会場においては、実際に国有林野内で獣道を確認し、シカの足がどこに着地しているかなどの観察を行いながら、地形や障害物の有無の違いなどから効果的な設置箇所の説明を講師から受けることができ、より効果的な現地実習になりました。

今回の研修が終了した署等においては、安全対策を万全に行ったうえで、職員によるニホンジカの捕獲に取り組んでいくこととします。



くくりわな